

H27年度宇治市小中一貫教育推進協議会会議録

会議名	H27年度宇治市小中一貫教育推進協議会
日時	平成27年7月22日（水） 18時00分～20時00分
場所	宇治市役所 6階 602会議室
出席者	（委員） 榊原会長 薮副会長 久世谷委員 船川委員 内田委員 松井委員 山下委員 石田委員 （事務局） 石田教育長 畑下教育部副部長 藤原参事 瀬野センター長 河田教育総務課長 金久一貫教育課長 富治林教育支援課長 市橋一貫教育課副課長 辻一貫教育課総括指導主事 青木一貫教育課教育指導係長 赤野一貫教育課指導主事 姫野一貫教育課指導主事 瀬戸一貫教育課指導主事 山花一貫教育課学校教育指導主事 大越一貫教育課学校教育指導主事
配付資料	H27年度第1回宇治市小中一貫教育推進協議会資料 H27年度中学校ブロックジョイントプランー小中一貫教育推進計画ー

1 開会

- ・石田教育長 開会挨拶
- ・各委員自己紹介
- ・事務局紹介
- ・設置要項に基づき会長に榊原委員、副会長に薮委員を選出
- ・榊原会長挨拶
- ・薮副会長挨拶

2 報告及び協議事項

- （1）報告1 平成26年度宇治市小中一貫教育推進協議会の活動概要
資料6頁に沿って事務局より説明

（会長）

昨年度、気軽な学校訪問を提案いただいたが、0であった。日程的に厳しいからか。事務局としてはどう考えているか。

（事務局）

設定はさせていただいたが、委員の皆様との都合が合わなかったと考えている。

（委員）

関心はあるのだが、なかなかスケジュールが合わなかった。

- （2）報告2 平成26年度小中一貫教育の取組到達状況報告
資料7頁に沿って事務局より説明

（委員）

複数の小学校を抱える中学校ブロックの意識は、保護者・地域の方々に浸透してきているのか。

(事務局)

アンケート等からは、子どもたちの小中一貫教育への評価に比べると、保護者の評価は低い。ただ、この3年間の経年の中で見て行くと、保護者の小中一貫教育に対する評価も高まっている。そういう意味で、少しずつ浸透してきていると考えている。

また、年度当初の校長会、チーフコーディネーター会議でも、今までの取組の上にもう少し「目に見えるような取組」を工夫して欲しいとお願いをしている。

(委員)

宇治ひろの学園の広野中学校、大久保小学校、大開小学校は校門に大きな看板がある。地域の方の認識もできてきていると思う。

民生委員をしている関係で、学校から学校便りが届く。小中一貫のことが、半分程度載っている。かなりの保護者が認知していると思う。毎回、毎月の細かい取組も学校便りに載っている。

(3) 報告3 平成27年度小中一貫教育の活動(案)

資料8頁に沿って事務局より説明

(会長)

委員の学校訪問をどういう形態で、どういう視点で訪問したら、学校として有益・参考になるか。

(委員)

学校の授業研を見てもらえると良い。小学校1年から何に注意をしてどのように指導しているのか、それが子どもの成長とどのように関わっているのか。具体的に校内で論議をするので是非見ていただきたい。小中教員が合同の研修会でベクトルをどのように合わせていくかという議論をしているところを見ていただきたい。その議論を踏まえて、こんなことを議論すれば良い、という意見がいただきたい。

(委員)

全面実施後、2校の分散進学校で校長として勤めた。小中教員の合同の公開授業研究会を見ていただきたい。小中教員が集まり、授業、その後の研究会で実際にどんな論議をしているのかを見ていただきたい。その中で、もっとこんなことを話し合ったら良いのではないかということをご示唆いただきたい。

宇治黄檗学園は、普通の日、どんな交流、どのように一体運営をしているのかというところを見ていただきたい。

(会長)

学校関係者以外の委員の話を伺いたい。

(委員)

先生方が何を、どのようにしてくれているのかを見たいというのが本音である。

私ももともとは小さな小学校出身。大きな木幡中学校へ行った時、ギャップがあった。

今、木幡中学校で校区の小学校のみなさん、地域のみなさんが集まる青少協のお祭りのお世話をしている。木幡中学校以外の様子も見たい。

(委員)

学校現場で小中一貫というのをどのようにしているのか、興味がある。先生同士のディスカッションの場を見てもらえるのは、いろいろなことを考えさせてもらえるきっかけになる。

私も笠取出身で木幡中学校に進学している。一番小さな学校から一番大きな学校へ進学するのを体験した。小中一貫というプロジェクトが立ち上がった時、どういうふうに進んでいくのか、気になっていた。木幡中学校を初め、他の中学校区でどのような取組をしているのか勉強させてもらいたい。

(委員)

私は連合育友会の副会長、小学校の育友会の会長をしている。小中一貫という言葉自体は聞いたことがあったが、どのような形で進み、何をを目指しているのかを余り認識していなかった。

この協議会は、進行管理を行うのだが、委員として、こういったところをポイントに見て行ったらよいかを教えてほしい。

(会長)

学校の方からは、普段の様子見てもらいたい。委員からは、他のブロックの様子も見てみたいという要望があった。

私自身、授業と事後研に興味を持ってきてきたが、よく言うと「和」を持ってやられていた。

小中一貫を行う上で、小学校と中学校のギャップが問題と言われていた。しかし、「小学校と中学校が違っていても良いではないか」「違う部分があっても良いのではないか」という考えもある。

小学校と中学校の先生方の論議の中で、「内容的に小学校と中学校では違いがある」「でも、ここに違いがあるのはまずいね」とぶつかってもらいたい。

子どもたちに力を付けるためには、教師がどう変わっていくか、授業スタイルをどう変えていく等を小中教員で論議しなければならない。

(委員)

学校、各ブロックで今年一年、何に焦点を当ててなのか年度当初に決める。その上で夏季研修の際、せっかくブロックで集まっているのだから、学力向上を論じるために、子どもたちの背景にあるもの、生活面、人間関係力も含めて分析していこう。それを踏まえて秋の授業研を行おう。そういう柱をどのブロックも持っている。

(事務局)

小中一貫教育というのは、9年間を見通した形で子どもたちに学習、生徒指導面で力を付けさせていこうとしている。視察の際のポイントであるが、授業だけでなく、事後研に参加していただくと、どういうふうに9年間の中でつなげていこうとしているのか、教員が努力しているのかを見ていただけるのではないかと考える。

また、小学校同士が連携しながら、同じスタイルで授業をし、同じ中学校に上がる時に支障がないようにしていこうと目指しているブロックが多い。

疑問に思われたことは、どうぞ質問していただきたい。

授業だけではなく、異年齢集団の交流・取組も見えて欲しい。交流活動で生き生きしている子どもの顔を見ていただきたい。小学校と中学校が一体となつての行事を見ていただく中で、違う発見もあると思う。

宇治市は学力が課題である。その課題に迫っていかなければならない。迫り方はブロックで違う。自分のブロックではこの迫り方ができる、というように考えるのも研究である。

(事務局)

探求学習を学校に求めている。宇治学も探求学習を子どもに植え付けたいと力を入れている。

各ブロックの取組は、市教委が引っ張ると言うよりも10個のブロックの思いを大事にしたい。

授業・事後研は、教師達の醸し出す「空気感」も見えて欲しい。

(委員)

議論が十分にできているブロックと不十分なブロックとの差がある。

不十分なブロックには、学校へそう感じたことを返して欲しい。

(会長)

我々協議会が学校に出向くこと、我々の存在が学校にとって小さな刺激になれば良いだろうと思う。

(4) 報告4 平成27年度宇治市小中一貫教育の取組について

資料(9頁～)により事務局より説明

(会長)

学校に対する期待・ニーズをお願いします。

(委員)

木幡中学校で先生方を見させてもらっているが、小中一貫教育というおもしろいことをやっているな、と思っている。結構自由度のある中でやっていると思う。

気になるのは分散進学である。2つの中学校に分かれる小学校の保護者の方々は疎外感を感じたりしないのか。地域の中でも聞くことがある。そのあたりをケアできればよい。

今、分散進学は3校か。

(事務局)

岡屋小学校、槇島小学校、小倉小学校、神明小学校の4校です。

(委員)

中学校ブロックで、小中一貫に関わって便りが出るが、分散進学のある学校で、「こちらのブロックとの取組がメインだから」と情報が載らないということがあったと保護者は不安になる。両方、同じように扱って欲しい。

(事務局)

分散進学に関しては、小中一貫教育全面実施の段階から課題として認識している。

ただ、解決は非常に難しい。小学校区、中学校区は地域コミュニティの基盤である。校区再編は進めていかなければならないというふうに考えているが、進めにくい状況である。

(事務局)

小中一貫教育を今後ずっとこの形で進めていくものではない。ただ、現時点では小中一貫教育コーディネーター・連携加配の教員が20名(その内、府費が5名)いる。その教員達が、分散進学があっても、そのどちらの小学校へも行き、少しでも接点を持つような形で取組を進めている。

(委員)

私自身も槇島小学校から北宇治中学へ進学した経験がある。よって、槇島中学校との連携というのは違和感を持っている。

家庭・地域との連携について、小学校の育友会をしていく中で、北宇治中学校との連携はかなりできているのだが、槇島中学校地域の方との連携が薄いと感じる。

分散進学自体が問題というのではなく、分散進学についてどのような取組をしているのかが問題だと思うので、そこを重点的に見て行きたい。

(委員)

ブロックの置かれている状況もあり、取組の進み具合も違う。

完全実施後3年が経ち、管理職ではなく、コーディネーターレベルの先生で、複数のブロックを経験している先生からも話を聞かせて欲しい。

(委員)

分散進学の学校で何もできていないわけではない。前任校が分散進学校である槇島小学校の子どもも進学してくる北宇治中学校であった。北小倉小学校の子どもは全員北宇治中学校に進学する。しかし、「槇島小学校の子どもを忘れてはいけない」というのは常に職員の意識の中にある。槇島小学校の授業も見せてもらおうし、槇島小学校の先生方にも来てもらおう。中学校入学時の春休みの課題は、北宇治中学校に来る子どもにもさせている。

教育相談等もキーになる。どこの中学校に進学する子どもなのかということを踏まえた上で、取り

組んでいる。

このようにかなり意識しながらやっている。

(委員)

分散進学校の教員のモチベーションが保護者の関心を高める上でのネックになる。校長としてどのようにモチベーションを高めていくかというのは課題である。

小中の教員、何年も取組を進めてきたことにより、共通理解、共通認識は進んでいる。

それぞれのブロックがどんなことを切り口に教員同士が腹を割って話ができているかというところを是非見て欲しい。

小小連携というのは大きな課題になる。小学校は、学級担任という文化なので、同一の小学校の中でも統一感がない。A小学校とB小学校が同じような主題で研究を進めることができるようになれば、その後で、小・中が結ばれていくのではないか。

(委員)

小学校同士、小中で、先生達が話を良い方に持って行ってもらっている、揉んでもらっている、そういうところを見てみたい。

また、コーディネーターの先生が各校に行き、話をしているのをよく見る。また違うブロック等へ行き、「あそこの学校、ブロックではこんなことをしていましたよ」という話が、軽くできると良いと思う。

(会長)

子どもたちに力を付けるには、授業の技法等が変わらなければいけない。そのためには、先生方が変わらないといけない。

「先生が変わる」ということを眼目に入れてやってもらいたい。

(5) 報告 5 小中一貫教育のアンケートについて

資料(13頁～)により事務局より説明

(会長)

何年もやっているものであるのだから、バージョンアップも考えていかなければならない。

アンケート結果を見るだけで終わらず、今後の指針となるようなアンケートになるよう一層考えて欲しい。

アンケートを行う適時性をどう考えるか。

(事務局)

子どもたちに関しても、小学校から中学校に上がってすぐというタイミングではなく、4月・5月と経過した上で行えるので、6月あたりの実施が良いと考える。

事務作業のことを考えると6月あたりが有り難い。

(会長)

どのような項目を取り入れたら良いかということを委員からご意見がもらえるタイミングを模索できればよいのだが(協議会開催時期とアンケート実施時期)。

(事務局)

2回目の協議会(3月)にH28年度実施の項目にご意見をいただきたい。

(会長)

任期の件と合わせて鑑みなければならない。

(6) 宇治市小中一貫教育への期待と希望

(会長)

全体を通して、また、進行管理のより良い在り方について意見等あればお願いしたい。

(委員)

義務教育学校の法制化があったが、宇治市の小中一貫教育は何か影響を受けたり、方向性が変わったということはあるのか。

(会長)

事務局としての一つの見通しを。

(事務局)

現時点では国の動向を見てとしかお答えできない。

現在、情報があまり出てきていない。義務教育学校になったら管理職の数はどう変わるのかなども含め詳しい情報がない。

国の動向を見ながら今後検討していく。

(委員)

この法改正を分散進学の問題につなげることができないのかと考えたので。

(事務局)

そのあたりも、国の動向を見ながら。ダイナミックに捉えられるような法になってくるのか見守り、慎重に検討していきたい。

(会長)

今回の法改正は、学校教育法の第1条に、「義務教育学校」というのが新しく入っただけである。また動向を見ながらということで。

以上の協議をもって本会を終了します。

(事務局)

今後の推進協議会の日程について説明

3 閉会

瀬野センター長より閉会の挨拶